



小説の未来 (20)

小説の効用

春日信彦

人生に不可欠な娯楽

人は生まれながらに娯楽を求めて生きていきます。つまり、欲を満たすこと、苦しみをいやすこと、が娯楽です。赤ちゃんは命をつなぐために目が見えなくとも嗅覚を使って母乳を必死になって求めます。そして、乳首を発見すると、チュ〜、チュ〜、チュ〜とお乳を吸います。これも、娯楽行為の一つなのです。

大人になれば、毎日の生活苦からくる精神的苦痛をいやすためにいろんな娯楽を求めていきます。言語中枢が発達した人間は、人類誕生以来、動物では作り出せない娯楽を膨大な数ほど作り出してきました。

まだ、原始的な生活をしていた人々でも、日々娯楽を求めていました。気に食わない人がいれば、イジメたり、喧嘩したり、同志を募り集団暴行をして快楽を得ていました。

徐々に、人間集団が拡大すると、大王が誕生し、奴隷制が発展していきますが、それに伴い、奴隷の苦痛は増大し、権力者に対する不満が増大していきました。そのころ、特に言語中枢が発達した人々は、創造主、神を中心とした宗教を創造しました。

文字言語を持たない奴隷たちでしたが、神のお告げを音声言語で感情に訴えかけられた奴隷たちは、次第に、神のお告げを信じていくようになっていきました。

この宗教は、奴隷の統治にはとても都合がいいものでした。創造主、神のお告げは、” 現世の苦しみに耐えることができれば、死後は天国で幸せな暮らしができる、また、生まれ変わったときときは、奴隷から解放される” というものでした。

大王は、奴隷たちに宗教を広め、奴隷たちの苦痛を救っていきました。そして、大王は神の使者であることを認めさせていきました。次第に、奴隷たちは、大王を神と崇め奉るようになっていきました。

文字言語が発達し、体系化された宗教の経典が創られると、世界的に宗教は奴隷統治のための最強の道具として利用されるようになりました。そして、奴隷にとって不可欠となった宗教娯楽は、現代にいたっても、日常生活に浸透し存続しているのです。

宗教娯楽は不可欠な娯楽なのですが、科学が進歩していくと、次から次に宗教以上の娯楽が作り出されていきました。言語は、ついに、最強の娯楽アイテムといえる”お金”を作り出しました。

お金は、記号に過ぎなかったのですが、高知能者たちは、奴隷にわかりやすくするために、貨幣を作ってあげました。奴隷たちは、偶像崇拜するがごとく貨幣を神以上に崇拝するようになっていきました。

貨幣は、一部の奴隷たちの生活を豊かにしていきましたが、一方、多くの奴隷たちを苦しめる悪魔になっていきました。というのは、マネーゲーム娯楽は高知能者に有利なゲームだったからです。高知能者は勝者となり、低知能者は敗者となっていきました。

人間は、生まれながらに持っているDNAによって、脳機能に差が生じます。生後の環境によって脳機能は変動しますが、脳機能を決定づけるのは、DNA情報です。わかりやすく言えば、同じように1時間勉強しても東大に合格する人もいれば、高校を落第する人もいるということです。

人間のDNA配列については、いまだ解明されていないことが多々あります。現実には、天才といわれるチョ～頭がいい人たちもいますし、精神的、知的障がい者といわれる人たちもいます。

チョ～頭がいい人たちは、歴史的にゲーム娯楽文化を創造してきました。確かに、彼らは、尊敬されるに値する実績を残してきたのですが、彼らが作り出したゲーム娯楽は、多くの悲劇も作り出しました。

彼らは、多大な快楽を与えるいろんなゲーム娯楽を作ってくれました。政治、宗教、ビジネス、スポーツ、音楽、競馬、インターネット、など具体的に数え上げればきりがなほどたくさん
のゲーム娯楽を作り出してくれました。

ゲーム娯楽を作るのに不可欠なものは、言語・記号です。人間は、言語・記号を発明して以来、急速にゲーム娯楽を増産してきました。人間をしのぐAIもゲーム娯楽の一つです。

特に、不滅と思われるマネーゲーム娯楽は、あらゆる分野のゲーム娯楽の根幹をなすといっても過言ではないと思いますが、人間を凌駕するAIが登場すると、AIが人間をコントロールするま
でになっています。ここで忘れてはいけないことは、娯楽は、人間に快楽を与えると同時に、苦
痛も与えるということです。

感情言語の娯楽

そこで、小説という言語ゲーム娯楽ですが、最近、あまり人気がありません。今一つ、快楽をもたらさないからでしょうか？ほかのゲーム娯楽に押されているせいでしょうか？

バクチ、スポーツ、音楽、ネットゲームなどと比較すれば、快楽度は劣るのでしょうか。いずれ、小説は、不要になり、消え去るのでしょうか？歴史的には、小説は庶民が手軽に楽しめる数少ない娯楽の一つとして多くの人に愛されてきました。

確かに、小説は、社会科学のような実用性のある娯楽ではありません。だから、大学の学部において、法学部、経済学部に比べて、文学部は人気がないのでしょうか。

おそらく、学生の皆さんは、”法学、経済学は社会に出て役に立つが、文学は何の役にも立たない”と思われているのではないのでしょうか？さらには、もはやAIの時代では、文学部は必要ないと思われているようでもあります。

あくまでも個人的な意見ですが、社会に出て、文学ほど役に立つものはないと思っています。確かに、処世術的な面でいえば、多少は、法学、経済学は役立つように思えます。

でも、生きるうえでは、法学的、経済学的な技術などは、ほんの少し役に立つという程度なのです。生きるということは、娯楽を求めると述べましたが、同時に、悩むということでもあるのです。

恋愛の悩み、学校での友達関係の悩み、職場での同僚関係の悩み、これらの心の悩みを解決するのに役立つものに、どんなアイテムがあるでしょうか？数学でしょうか？英語でしょうか？物理でしょうか？工学でしょうか？法学でしょうか？経済学でしょうか？医学でしょうか？

私たちが学校で学んでいる学科が、心の悩みの解決に役立つでしょうか？多少は、役立つかもしれない。でも、心の悩みを解決するアイテムにはなってくれそうにもありません。

悩んだ挙句、どうすることもできず、暴力をふるう、ひきこもる、自殺する、殺人を犯す、宗教を信じる、などの行為が出現してきます。これらの行為は、苦しみから逃れるために行う娯楽でもあるのです。

苦痛をいやしてくれるゲーム娯楽は、山ほどあります。でも、これらのゲーム娯楽は、快樂をもたらすがゆえに、脳にとって有害でもあるのです。現に、ネットゲーム依存症となり、思考能力が低下し、痴呆化を引き起こしています。

特に、問題なのは、ゲームの内容です。人気があるゲームのほとんどは、戦争、殺人、格闘ゲームです。小さいころからこのようなネットゲームに洗脳され続けると、人間関係に必要な感情が育成されず、感情言語も十分に発達しません。

では、小説を読めば、悩みは解決するのでしょうか？解決に役立つとしか言いようがありませんが、解決へのヒントをつかむのに、小説は役立つと思っています。さらに、小説を書くことは、悩みの解決に大いに役立つと言えます。私の場合がそうであったからですが、学生の方は、ぜひ、小説の創作にチャレンジしてほしいと思います。

言語娯楽である小説のいい点は、言語中枢を刺激するだけでなく、感情神経をも活性化する点です。生きるということを考えるうえでも、生きることを享受するうえでも、感情言語で構築された小説は大いに役に立ちます。また、小説を書くことによって、自分の心を客観的に見つめる時間を与えてくれます。

人は生まれながらに欲があり、欲がるからこそ、苦痛が生まれます。そして、苦痛を癒そうと娯楽を求めます。これは、死ぬまで続くのです。人は、娯楽なくして生きることはできないのです。

だとすれば、人は脳に有益な娯楽を選択すればいいのです。小説娯楽は、人によっては快樂をもたらさないかもしれませんが。でも、小学生でも、中卒でも、科学者でも、ひきこもりでも、ホームレスでも、日雇生活者でも、チョ～大金持ちでも、大統領でも、総理大臣でも、ローマ法王でも、享受できる娯楽なのです。